

ラーモス
移住地

50周年に向け準備開始

独特の「梨外交」を進める

式典上空を編隊飛行!?

「大統領でなくなったらもう梨は食べられないのかって、ルーラ前大統領から催促がありまして。というのは南伯サンタカタリーナ州ラーモス移住地の関係者だ。同日伯文化協会が1月20日に開催した定期総会では、同地初の二世で、しかも女性の本多泉美さんが会長に選ばれた。彼女が陣頭指揮をとり、独特の「梨外交」を練り広げながら、来年4月12日に予定されている創立50周年式典に向けて準備を着々と進めている。

ルーラ前大統領「今年の梨は？」

例年通り各方面に梨を贈ろうかという話は、



編隊飛行を空軍総司令部で要請したオノフレ下議(左)と
斉藤準一空軍総司令官(A Semana紙に掲載されたもの)

年頭から役員会で持ち上がっていた。しかし、同地「さくら祭り」への州助成金が下りなかったこともあり、「今年は見送ろうか」との語が出たほど同地文協は懐具合が寂しかったという。

1月の定期総会で役員が一新し、10人中5人が二世女性、2人が二世男性、3人のみが古参一世となった。ボ語中心の会議で議論が活発化したという。3月4日の役員会で古参一世から「今年も梨の贈与」が再提案された。「目に見える贈った効果」を求める二世陣と古参らとの議論

となつたが、「今までの人間関係を大切に」との観点から合意され、今年も贈与することになった。その翌日、偶然にも空軍の斉藤準一総司令官から同移住地の小川直樹さん(小川和巳さんの甥)に電話があり、その際に今年も梨を贈ることを伝えると、総司令官は大変喜んだという。

催促があったことも明かされたという。まさに「梨外交」の面目躍如だ。

文協分に加え、元会長、小川直樹さん、小川和郎さん(和巳氏長男)らが個人的に協力し、計55箱分を贈った。3月23日にクリチバーノス飛行場で空軍機に渡すと、その晩さつそく総司令官から直々に「美味しかった」とお礼の電話が直樹さん宅にあった。

司令官から連邦政府の誰に渡すか定かではないが、「ジウマ大統領や

防衛大臣、もちろんルーラ前大統領にも手渡されたことでしょう」と同地では期待している。

来年、移住地開設50周年を迎えるにあたり、同文協は4月12日に式典を予定している。すでに斉藤空軍大将には「その時に総司令であつ

てもなくても」と出席を依頼しているとか。

同地域の週刊紙ア・セマーナの記事によれば、オノフレ下議は空軍機の編隊飛行を来年4月の記念式典でするように正式に要請をしている。もし実現すれば、地方の移住地とすれば画期的な

催しとなることは間違いないだろう。

大耳小耳

ラーモス移住地に詳しい麗澤大学の丸山康則名誉教授は、50周年を

記念した刊行物の手伝いを申し出ており、昨年も同地を訪ね、4冊目となる日本移民に関する著作の取材を兼ねて数カ月滞在した。現地の山本和憲さんが編集委員長となつて作業が進められて

おり、10年前の『40年の歩み』の姉妹編的なものになる予定だとか。だけに、しっかりとした歴史を残して欲しいところ。

移民農業史の重要なポイントだ。半世紀の大きな節目だけに、しっかりと歴史を残して欲しいところ。